

古文「二方向の敬語」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

二方向（二方面）の敬語とは、1つの動作に謙讓語＋尊敬語が同時に使われ、2人の人物に同時に敬意を表す形です（例：「申し給ふ」＝申し〔謙讓・受け手へ〕＋給ふ〔尊敬・する人へ〕）。

このドリルでは、傍線部の敬語を次の4タイプ（ア～エ）に分類します。

記号	種類	敬意の向き	代表例
ア	二方向敬語（謙讓＋尊敬）	受け手と動作主の2人へ	申し給ふ・奏し給ふ・聞こえさせ給ふ
イ	尊敬語のみ	動作主（する人）へ	給ふ・おはす・のたまふ・思す
ウ	謙讓語のみ	受け手（される人）へ	申す・奏す・奉る・参る
エ	丁寧語	聞き手（読み手）へ	侍り・候ふ

鉄則 - 「謙讓語＋給ふ」の形を見たら二方向（ア）。例：申し給ふ・聞こえ給ふ・奏し給ふ。 - 同じ謙讓語でも、「給ふ」が付かなければ謙讓のみ（ウ）。例：申す・奏す・奉る。 - 一般の動詞＋給ふは尊敬のみ（イ）。例：笑ひ給ふ・立ち給ふ。

🎯 解き方のコツ

1. まず「給ふ」など尊敬語があるかを見る。
2. その前が謙讓語かを見る。謙讓語＋尊敬語なら二方向（ア）。
3. 尊敬語だけ（前が普通の動詞）→イ。謙讓語だけ（給ふなし）→ウ。
4. 侍り・候ふは丁寧語→エ（聞き手への敬意）。
5. 代表的な二方向：奏し給ふ・啓し給ふ・申し給ふ・聞こえ給ふ・奉り給ふ・参らせ給ふ・聞こえさせ給ふ・申させ給ふ。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	22／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

中納言、帝に事の由を申し給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝中納言へ）。二方向の敬語。

Q2. 次の傍線部「笑ひ給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、いとをかしと笑ひ給ふ。 答え：イ 解説：「笑ひ（一般の動詞）＋給ふ（尊敬）」。動作主への尊敬語のみ。

Q3. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

家来、主にありのままを申す。 答え：ウ 解説：「申す」は謙譲語（受け手＝主へ）。尊敬「給ふ」が付かないので謙譲のみ。

Q4. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

「われ、ここに侍り」と申す。 答え：エ 解説：「侍り」は丁寧語（聞き手への敬意）。「あります・おります」。

Q5. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、帝に御消息を聞こえ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝女御

へ)。二方向の敬語。

Q6. 次の傍線部「おはす」は、ア～エのどれか。

姫君、こなたにおはす。 答え：イ 解説：「おはす」は尊敬語（動作主＝姫君へ）。受け手への敬意はない。

Q7. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

姫、宮に御文を奉る。 答え：ウ 解説：「奉る」は謙讓語（受け手＝宮へ）。給ふが付かないので謙讓のみ。

Q8. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

「さやうのこと、よく存じて候ふ」と言ふ。 答え：エ 解説：「候ふ」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q9. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、帝に国の事を奏し給ふ。 答え：ア 解説：奏し（謙讓＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。

Q10. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

大将、近き人々に、かくのたまふ。 答え：イ 解説：「のたまふ」は「言ふ」の尊敬語（動作主へ）。尊敬のみ。

Q11. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

后、夜更けて内裏に参る。 答え：ウ 解説：「参る」は謙讓語（参上する、受け手＝帝のいる内裏へ）。給ふなしで謙讓のみ。

Q12. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、帝に御琴を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝女御へ）。二方向の敬語。

Q13. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

大臣、いとほしと思す。 答え：イ 解説：「思す」は「思ふ」の尊敬語（動作主へ）。尊敬のみ。

Q14. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

大納言、中宮に静かに啓す。 答え：ウ 解説：「啓す」は中宮・東宮への謙譲語（受け手へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q15. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

上達部、帝に仕うまつり給ふ。 答え：ア 解説：仕うまつり（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝上達部へ）。二方向の敬語。

Q16. 次の傍線部「御覧ず」は、ア～エのどれか。

帝、めづらしき絵を御覧ず。 答え：イ 解説：「御覧ず」は「見る」の尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q17. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

女、忍びて男に聞こゆ。 答え：ウ 解説：「聞こゆ」は「言ふ」の謙譲語（受け手＝男へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q18. 次の傍線部「はべり」は、ア～エのどれか。

「その事、たしかにはべり」と答ふ。 答え：エ 解説：「はべり（侍り）」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q19. 次の傍線部「参り給ふ」は、ア～エのどれか。

后、帝の御前に参り給ふ。 答え：ア 解説：参り（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝后へ）。二方向の敬語。

Q20. 次の傍線部「召す」は、ア～エのどれか。

帝、笛の上手を召す。 答え：イ 解説：「召す」は「呼ぶ」等の尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

【第2部】標準（Q21～Q50）

Q21. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、帝に夜もすがら聞こえさせ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝帝へ）＋させ給ふ（尊敬＝女御へ）。二方向の敬語（尊敬は二重）。

Q22. 次の傍線部「立ち給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、座を立ち給ふ。 答え：イ 解説：「立ち（一般の動詞）＋給ふ（尊敬）」。尊敬のみ。

Q23. 次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

蔵人、帝に火急の事を奏す。 答え：ウ 解説：「奏す」は帝への謙譲語（受け手へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q24. 次の傍線部「申させ給ふ」は、ア～エのどれか。

大納言、帝に委しく申させ給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙譲＝帝へ）＋させ給ふ（尊敬＝大納言へ）。二方向の敬語。

Q25. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

「ただ今、まかり出でて候ふ」と言上す。 答え：エ 解説：「候ふ」は丁寧語（聞き手への敬

意)。

Q26. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

中宮、帝に果物を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝中宮へ）。二方向の敬語。

Q27. 次の傍線部「のたまはす」は、ア～エのどれか。

帝、近臣に、かくのたまはす。 答え：イ 解説：「のたまはす」は「言ふ」の尊敬語（「のたまふ」より高い）。動作主への尊敬のみ。

Q28. 次の傍線部「承る」は、ア～エのどれか。

家臣、主の仰せを承る。 答え：ウ 解説：「承る」は「受く・聞く」の謙譲語（受け手＝主へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q29. 次の傍線部「参らせ給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、宮に御琴を参らせ給ふ。 答え：ア 解説：参らせ（謙譲＝差し上げる、宮へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。

Q30. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

帝、清涼殿におはします。 答え：イ 解説：「おはします」は尊敬語（動作主＝帝へ）。受け手への敬意はない。

Q31. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

翁、姫に思ふことを申す。 答え：ウ 解説：「申す」は謙譲語（受け手＝姫へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q32. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

大納言、帝に御礼を申し給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大納言へ）。二方向の敬語。

Q33. 次の傍線部「思しめす」は、ア～エのどれか。

帝、あはれと思しめす。 答え：イ 解説：「思しめす」は「思ふ」の尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q34. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

大夫、東宮に祝ひの言葉を啓し給ふ。 答え：ア 解説：啓し（謙譲＝東宮へ）＋給ふ（尊敬＝大夫へ）。二方向の敬語。

Q35. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

「かかる事も、世には侍り」と語る。 答え：エ 解説：「侍り」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q36. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

大臣、帝に御消息を聞こゆ。 答え：ウ 解説：「聞こゆ」は謙譲語（受け手＝帝へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q37. 次の傍線部「渡り給ふ」は、ア～エのどれか。

中宮、御堂に渡り給ふ。 答え：イ 解説：「渡り（一般の動詞）＋給ふ（尊敬）」。動作主への尊敬のみ。

Q38. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

関白、帝に世の有様を奏し給ふ。 答え：ア 解説：奏し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝関白へ）。二方向の敬語。

Q39. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

上達部、こぞりて内裏に**参る**。 答え：ウ 解説：「参る」は謙譲語（参上する、受け手へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q40. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

後の宮、帝に御文を**聞こえ給ふ**。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝後の宮へ）。二方向の敬語。

Q41. 次の傍線部「仰す」は、ア～エのどれか。

帝、蔵人に、とく参れと**仰す**。 答え：イ 解説：「仰す」は「言ふ・命ず」の尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q42. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

翁、帝に玉の枝を**奉る**。 答え：ウ 解説：「奉る」は謙譲語（受け手＝帝へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q43. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

諸卿、帝に忠を尽くして仕うまつり**給ふ**。 答え：ア 解説：仕うまつり（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝諸卿へ）。二方向の敬語。

Q44. 次の傍線部「候へ」は、ア～エのどれか。

「我こそ、その者にて**候へ**」と名のる。 答え：エ 解説：「候ふ」は丁寧語（聞き手への敬意。已然形「候へ」、「こそ」の結び）。

Q45. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、御簾を上げて、外を見**給ふ**。 答え：イ 解説：「見（一般の動詞）＋給ふ（四段・尊敬）」。動作主への尊敬のみ。

Q46. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

女房、中宮に小声にて啓す。 答え：ウ 解説：「啓す」は中宮への謙讓語（受け手へ）。給ふなしで謙讓のみ。

Q47. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

右大臣、左大臣に、ねむごろに申し給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙讓＝左大臣へ）＋給ふ（尊敬＝右大臣へ）。二方向の敬語。

Q48. 次の傍線部「おはすれ」は、ア～エのどれか。

中將、ただ今こそ西の対におはすれ。 答え：イ 解説：「おはす」は尊敬語（動作主＝中將へ。已然形「おはすれ」）。尊敬のみ。

Q49. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

姫君、父大臣に文を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙讓＝父大臣へ）＋給ふ（尊敬＝姫君へ）。二方向の敬語。

Q50. 次の傍線部「まうづ」は、ア～エのどれか。

人々、初瀬の寺にまうづ。 答え：ウ 解説：「まうづ（詣づ）」は「行く」の謙讓語（受け手＝寺の仏へ）。給ふなしで謙讓のみ。

【第3部】応用（Q51～Q80）

Q51. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

中宮、帝にこまやかに聞こえさせ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙讓＝帝へ）＋させ給ふ（尊敬＝中宮へ）。二方向の敬語。

Q52. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

院、来し方をあはれと思す。 答え：イ 解説：「思す」は尊敬語（動作主＝院へ）。尊敬のみ。

Q53. 次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

博士、帝に暦のことを奏す。 答え：ウ 解説：「奏す」は帝への謙讓語（受け手へ）。給ふなしで謙讓のみ。

Q54. 次の傍線部「申させ給ふ」は、ア～エのどれか。

摂政、帝に政の事を申させ給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙讓＝帝へ）＋させ給ふ（尊敬＝摂政へ）。二方向の敬語。

Q55. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

大将、馬より下り給ふ。 答え：イ 解説：「下り（一般の動詞）＋給ふ（尊敬）」。尊敬のみ。

Q56. 次の傍線部「承り給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、帝の仰せを承り給ふ。 答え：ア 解説：承り（謙讓＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。

Q57. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

「げに、ことわりに侍り」と申しけり。 答え：エ 解説：「侍り」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q58. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

海人ども、贄（にへ）を宮に奉る。 答え：ウ 解説：「奉る」は謙讓語（受け手＝宮へ）。給ふなしで謙讓のみ。

Q59. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

別当、東宮に事の子細を啓し給ふ。 答え：ア 解説：啓し（謙譲＝東宮へ）＋給ふ（尊敬＝別当へ）。二方向の敬語。

Q60. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

殿、御簾のうちより、かくのたまふ。 答え：イ 解説：「のたまふ」は尊敬語（動作主＝殿へ）。尊敬のみ。

Q61. 次の傍線部「参り給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、初めて内裏に参り給ふ。 答え：ア 解説：参り（謙譲＝帝のいる内裏へ）＋給ふ（尊敬＝女御へ）。二方向の敬語。

Q62. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

乳母、姫君に泣く泣く聞こゆ。 答え：ウ 解説：「聞こゆ」は謙譲語（受け手＝姫君へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q63. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

上皇、御堂におはします。 答え：イ 解説：「おはします」は尊敬語（動作主＝上皇へ）。尊敬のみ。

Q64. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

大納言、東宮に剣を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙譲＝東宮へ）＋給ふ（尊敬＝大納言へ）。二方向の敬語。

Q65. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

「君の御ため、命も惜しからず候ふ」と言ふ。 答え：エ 解説：「候ふ」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q66. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

中納言、大将に、つつしみて申し給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙譲＝大将へ）＋給ふ（尊敬＝中納言へ）。二方向の敬語。

Q67. 次の傍線部「召す」は、ア～エのどれか。

院、医師（くすし）を急ぎ召す。 答え：イ 解説：「召す」は尊敬語（動作主＝院へ）。尊敬のみ。

Q68. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、帝に勝利の由を奏し給ふ。 答え：ア 解説：奏し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。

Q69. 次の傍線部「参る」は、ア～エのどれか。

殿上人、夜居に御前に参る。 答え：ウ 解説：「参る」は謙譲語（参上する、受け手＝帝へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q70. 次の傍線部「思しめす」は、ア～エのどれか。

帝、いとほしと思しめす。 答え：イ 解説：「思しめす」は尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q71. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

母君、姫君に教へを聞こえ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝姫君へ）＋給ふ（尊敬＝母君へ）。二方向の敬語。

Q72. 次の傍線部「承る」は、ア～エのどれか。

使ひ、帝の御言葉を承る。 答え：ウ 解説：「承る」は謙譲語（受け手＝帝へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q73. 次の傍線部「のたまはす」は、ア～エのどれか。

中宮、女房どもに、やはらかにのたまはす。 答え：イ 解説：「のたまはす」は尊敬語（動作主＝中宮へ）。尊敬のみ。

Q74. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、後の宮に御衣を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙譲＝後の宮へ）＋給ふ（尊敬＝女御へ）。二方向の敬語。

Q75. 次の傍線部「はべり」は、ア～エのどれか。

「さること、昔よりはべり」と古老の言ふ。 答え：エ 解説：「はべり」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q76. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

翁、帝に名をば讃岐の造と申す。 答え：ウ 解説：「申す」は謙譲語（受け手＝帝へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q77. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

諸大夫、院に久しく仕うまつり給ふ。 答え：ア 解説：仕うまつり（謙譲＝院へ）＋給ふ（尊敬＝諸大夫へ）。二方向の敬語。

Q78. 次の傍線部「御覧ず」は、ア～エのどれか。

中宮、絵物語を御覧ず。 答え：イ 解説：「御覧ず」は尊敬語（動作主＝中宮へ）。尊敬のみ。

Q79. 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

蔵人、東宮に火急の事を啓す。 答え：ウ 解説：「啓す」は東宮への謙譲語（受け手へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q80. 次の傍線部「参らせ給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、帝に御薬を参らせ給ふ。 答え：ア 解説：参らせ（謙譲＝差し上げる、帝へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。

【第4部】入試（Q81～Q100）

Q81. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

大納言、帝の御前にかしこまりて、ことよしを申し給ふ。 答え：ア 解説：申し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大納言へ）。二方向の敬語。

Q82. 次の傍線部「のたまふ」は、ア～エのどれか。

大将、人々をかへりみて、かくなむのたまふ。 答え：イ 解説：「のたまふ」は尊敬語（動作主＝大将へ）。尊敬のみ。

Q83. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

関白殿、帝に万歳楽の終はりしよしを奏し給ふ。 答え：ア 解説：奏し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝関白殿へ）。二方向の敬語。

Q84. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

国々の民、年ごとの調（みつぎ）を朝廷に奉る。 答え：ウ 解説：「奉る」は謙譲語（受け手＝朝廷へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q85. 次の傍線部「候ふ」は、ア～エのどれか。

「この笛のこと、よく心得て候ふ」と楽人申す。 答え：エ 解説：「候ふ」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q86. 次の傍線部「聞こえさせ給ふ」は、ア～エのどれか。

女御、帝に、夜一夜（よひとよ）昔のことを聞こえさせ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝帝へ）＋させ給ふ（尊敬＝女御へ）。二方向の敬語。

Q87. 次の傍線部「おはします」は、ア～エのどれか。

法皇、嵯峨の御堂におはします。 答え：イ 解説：「おはします」は尊敬語（動作主＝法皇へ）。尊敬のみ。

Q88. 次の傍線部「啓し給ふ」は、ア～エのどれか。

中納言、中宮に、御賀のことを啓し給ふ。 答え：ア 解説：啓し（謙譲＝中宮へ）＋給ふ（尊敬＝中納言へ）。二方向の敬語。

Q89. 次の傍線部「参らす」は、ア～エのどれか。

受領（ずりやう）の妻、わが娘を宮仕へに参らす。 答え：ウ 解説：「参らす」は「参上させる・差し上げる」の謙譲語（受け手＝宮中へ）。ここは給ふがなく謙譲のみ。

Q90. 次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

帝、月を御覧じて、過ぎにし方をあはれと思す。 答え：イ 解説：「思す」は尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q91. 次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～エのどれか。

後の宮、帝に、手づから縫ひたる御衣を奉り給ふ。 答え：ア 解説：奉り（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝後の宮へ）。二方向の敬語。

Q92. 次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

老いたる女房、姫君に昔物語を申す。 答え：ウ 解説：「申す」は謙譲語（受け手＝姫君へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q93. 次の傍線部「仕うまつり給ふ」は、ア～エのどれか。

上達部・殿上人、こぞりて院に仕うまつり給ふ。 答え：ア 解説：仕うまつり（謙譲＝院へ）＋給ふ（尊敬＝上達部らへ）。二方向の敬語。

Q94. 次の傍線部「仰せらる」は、ア～エのどれか。

帝、大臣を召して、かく仰せらる。 答え：イ 解説：「仰せらる」は「言ふ」の尊敬語（動作主＝帝へ）。尊敬のみ。

Q95. 次の傍線部「聞こえ給ふ」は、ア～エのどれか。

母北の方、入道殿に、姫君のことを聞こえ給ふ。 答え：ア 解説：聞こえ（謙譲＝入道殿へ）＋給ふ（尊敬＝母北の方へ）。二方向の敬語。

Q96. 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

「かやうの所には、鬼も住むと聞き侍り」と語る。 答え：エ 解説：「侍り」は丁寧語（聞き手への敬意）。

Q97. 次の傍線部「奏し給ふ」は、ア～エのどれか。

摂政、御簾の外にて、帝に火急の事を奏し給ふ。 答え：ア 解説：奏し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝摂政へ）。二方向の敬語。

Q98. 次の傍線部「給ふ」は、ア～エのどれか。

院、池の蓮を眺めて、しばし立ち止まり給ふ。 答え：イ 解説：「立ち止まり（一般の動詞）＋給ふ（尊敬）」。尊敬のみ。

Q99. 次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

諸国の受領、おりふしの貢ぎ物を院に奉る。 答え：ウ 解説：「奉る」は謙譲語（受け手＝院へ）。給ふなしで謙譲のみ。

Q100. 次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

大臣、御前にさぶらひて、帝に世のまつりごとを申し給ふ。 **答え：ア** **解説：**申し（謙譲＝帝へ）＋給ふ（尊敬＝大臣へ）。二方向の敬語。文中の「さぶらひて」は丁寧・謙譲だが、傍線部は「申し給ふ」。

採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎 (Q1～Q20)	/20
第2部 標準 (Q21～Q50)	/30
第3部 応用 (Q51～Q80)	/30
第4部 入試 (Q81～Q100)	/20
合計	/100

復習のポイント - 二方向の敬語（ア）＝謙譲語＋尊敬語。「申し給ふ・奏し給ふ・聞こえさせ給ふ」のように、謙譲語のあとに「給ふ」など尊敬語が付く。 - 謙譲は受け手へ／尊敬は動作主へ。だから「中納言、帝に申し給ふ」は、帝（受け手）と中納言（動作主）の両方を敬っている。 - 「給ふ」が付かなければ謙譲のみ（ウ）。申す・奏す・奉る・参るなどは単独なら受け手だけへの敬意。 - 侍り・候ふは丁寧語（エ）で、聞き手への敬意。尊敬・謙譲とは別。